



理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- ・地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- ・地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- ・二次医療を中心に担当します。
- ・医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- ・超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

四十肩・五十肩について

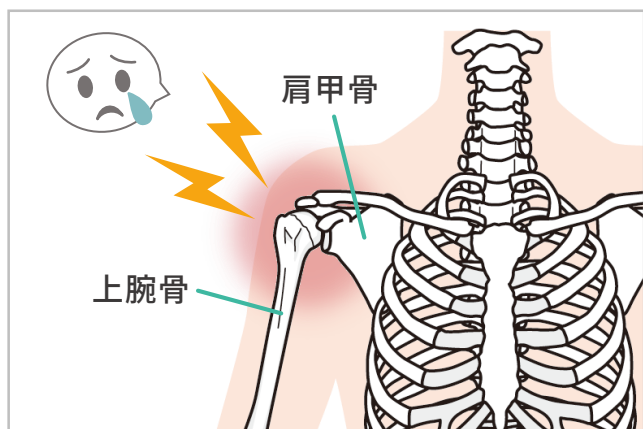
整形外科 医長 内野 崇彦

四十肩・五十肩と呼ばれる由来

四十肩・五十肩はよく聞く言葉だと思いますが、この語源は江戸時代の俗語の辞書、俚言集覧(りげんしゅうらん)から引用されたものです。

凡そ、人五十歳ばかりの時、手腕、骨節痛む事あり、程過ぎれば薬せずして癒ゆるものなり、俗にこれを五十腕とも五十肩ともいふ。また、長寿病。

つまり、中高年の肩関節痛や可動域制限を呈する疾患を総じて四十肩・五十肩といい、肩関節周囲炎とも呼ばれます。肩関節とは、主に上腕骨と肩甲骨の間で構成される関節のことをいいます。



肩こりとは違う？

四十肩・五十肩の症状

肩こりは同じような姿勢を取り続けたり、肩周囲が冷えることで肩甲骨周囲に付着する筋肉に血行障害が起きたりすることによる症状です。症状は首から背中にあることが多く肩関節自体の動きが悪くなることはありません。

しかし、四十肩・五十肩は肩関節周囲に炎症が起きて生じるため、ひどくなつたときには肩関節の動きをよくする袋(肩峰下滑液包)や関節を包む袋(関節包)が癒着して動きが悪化してしまい、肩関節がほぼ動かない肩関節拘縮(凍結肩)と呼ばれる状態になってしまいます。これらの原因としては、老化による肩の筋(腱板)や骨の損傷が考えられています。

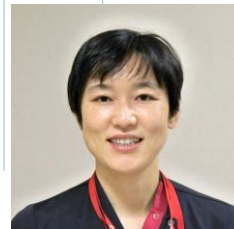
四十肩・五十肩の治療法

治療法ですが、自然に治癒することもあります。痛みが強い急性期には、三角巾などを用いて安静を計り、消炎鎮痛剤の内服、注射などが有効です。急性期を過ぎたら、温熱療法(入浴など)や運動療法(拘縮予防や筋力強化)などのリハビリを行います。これらで改善しない場合は手術を勧めることもあります。

安心して入院生活を送っていただくために

じょく そう

褥瘡(床ずれ)対策 について



皮膚・排泄ケア認定看護師
漆原 聖子

入院患者さんの中には車いすで移動される方、起き上がれない方、自身の意思で身動きが取れない方など様々な患者さんがおられます。そのような患者さんで注意しなければならない皮膚障害の一つに褥瘡(床ずれ)があります。寝返りなど体重の圧力の移動ができない患者さんは何も対策をしなければ褥瘡が発生する可能性があります。病気・ケガを治療するために入院しているのに、新たなケガを作ってしまうように予防する必要があります。

褥瘡とは何なのか、そして当院で行っている褥瘡対策についてまとめてみました。

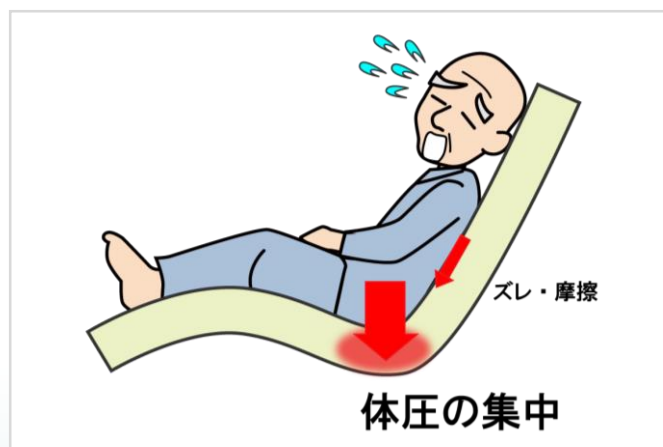
褥瘡(床ずれ)って何？



褥瘡とは、長期にわたる体重での圧迫やずれ・摩擦などが原因でできる皮膚の傷のことで、一般的に「床ずれ」と言われています。褥瘡ができると、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまいます。ひどい状態になると、傷が骨にまで達することがあります。

褥瘡ができやすい方の特徴として、1日の大半をベッドで過ごす方、車いす生活をしている方が挙げられます。入院生活ではベッド上での生活が多くなるため、若い方からご高齢の方まで誰でも褥瘡ができる可能性があります。

褥瘡はどうやってできる？



普段私たちが眠っている間は寝返りをうったり、長時間椅子に座っているときはお尻を浮かせるなどして、無意識のうちに同じ部位に長い時間の圧迫が加わらないようにしています。

しかし、自分で身体の向きを変えることができない方は、体重で長時間圧迫された皮膚の血流が低下し、細胞に十分な酸素や栄養が行き渡らなくなります。その結果、細胞組織が死んでしまうことで褥瘡ができてしまいます。褥瘡は身体のあらゆるところにできますが、骨が出っ張っていて身体の下になる部位にできやすい傾向があります。



褥瘡を悪化させないために！

マットレスなどの使用



褥瘡を予防するために、褥瘡予防用マットレスを使用しています。寝返りに介助が必要もしくは寝返りが全くできない方、すでに褥瘡がある方には、マットレス内の空気圧をコントロールすることができるエアマットレスを使用します。また、エアマットレスのみでは身体の圧力を逃すことが不十分のため、数種類の褥瘡予防用クッションを使用して数時間おきに身体の向きを変える介助を行っています。その際には、滑りやすい素材のグローブを使用し、皮膚の摩擦やずれを抑えて、褥瘡の発生を予防しています。

定期的な褥瘡評価



入院患者さんの日々のお世話に係る看護師が皮膚の状態をチェックし、異常が無いか確認することはもちろんですが、褥瘡の発生が予想される方、すでに褥瘡がある方に対して、週1回各病棟の褥瘡対策専任看護師が中心となって褥瘡予防対策の評価を行っています。また、不定期に褥瘡総合回診を実施しており、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、医師が参加し、あらゆる視点から患者さんにとって一番効果的な褥瘡予防対策・褥瘡処置方法を検討し、患者さん自身やご家族に対応策を提案しています。

褥瘡以外の皮膚トラブル スキン-テア



スキン-テアとは、皮膚裂傷とも言われ、摩擦・ずれによって皮膚が裂けた状態をいいます。「乾燥している」「むくんでいる」「紫斑がある」「食事で栄養が十分に摂れていない」「長期間ステロイド・抗凝固薬を使用している」などの皮膚が弱い状態に発生し、気付かない間にできることが多くあります。特に、ご高齢の方の手足に発生しやすく、肌の露出が多い夏、肌が乾燥しやすい冬に発生しやすいとされています。

スキン-テアの予防として、入院中は毎日全身の皮膚を細かく観察しています。皮膚が乾燥している場合は保湿剤を塗布し、手足の皮膚を保護するために、筒状包帯を使用したり、ご家族の方にアームウォーマー、レッグウォーマーの持参をお願いしています。

